



発行日：平成 30 年 2 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 9 回海の地域部会を開催しました！

1 月 24 日（水曜日）に第 9 回海部会地域部会が西尾市役所にて開催されました。今回の地域部会では、今年度の活動成果の報告と来年度の活動方針について、意見交換を行いました。



日時：H30 年 1 月 24 日（水） 15:00～17:00
場所：西尾市役所 水道庁舎 第 4 会議室
参加者：17 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1：本日の話し合いで決まったこと



■今年度の活動成果報告について

- ダム砂を活用した干潟造成箇所を現地視察したが、昨年度とは生物の生息状況が全く異なり、小サイズのアサリが若干確認される程度であり、石川組合長の話からトンボロ干潟全体の生物資源量が減少していることを情報共有することができました。
- 三河湾全体の傾向として、水産資源が減少している要因の一つに海の水の貧栄養化の影響があると考えられており、これに関する水質データの傾向を鈴木副座長から説明いただき、部会員全員で情報共有することができました。
- 22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の藤前干潟エクスカーションに参加し、親子連れや若者など一般市民の参加が多く、ごみ問題に対する認識が高いことを知ることができました。



■来年度の活動計画について

●活動テーマについて

来年度の海部会は、アサリの資源回復を重要テーマと位置付け、アサリ資源の減少要因と考えられている海の水質の貧栄養化問題や生息場となる良好な干潟環境の創出など、課題解決に向けた情報共有と意見交換を行い、豊かな海の再生を目指します。

●次年度の懇談会の体制について

山部会、海部会との連携を深め、懇談会活動の活性化を図るため合同部会の開催に賛同します。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 活動成果報告について

(・意見 ▶回答)

- 東幡豆の現状を説明するとアサリ自体、ほぼ生息していない状況であり、その原因として砂の移動が激しくて、砂が流れていくほうが多いことが考えられる。以前も干潟の砂が移動しやすく、そのために流れを変えるように、捨て石を入れたりしていたが、流れが止まらない。上面の砂が細かいため流れやすく、地盤の低い箇所は常に移動しておる。まずは貝の寝床となる場を何とかしないといけない。(石川)
- トンボロ干潟は、以前ダム砂を投入して干潟を造成した後、私も測量をしたが、割と安定しているように見え、台風が通過した後も割と安定しているような結果が出ていた。(青木)
- 今の干潟は自然を見るならいいが、生き物を観察して増やしたいとなると、これも大きな問題になっているので、砂の移動も含めた経過観察する必要がある。(石川)
- ▶ 二枚貝にとって衣食住の条件が同時に良くないと、餌もなきゃいけない、砂もなきゃいけない、硫化水素が出ちゃいけない、これが同時並行的に良くなると貝は増えていかない。今、諏訪湖や穴道湖でも同じような議論をしており、ここの情報も発散をしていきたい。(井上)
- ▶ 鳥だけに関して言うと、この前行ったときにわかったように、ダム砂を入れた箇所周辺に鳥が集中していた。ちょうど視察した時期は一番鳥の少ない時期であるが、あの部分だけに鳥が集まった。やっぱり環境が良くなると、生き物にとってはいいことだと感じた。
- ▶ 今までは、海の水はきれいならきれいなほうがいいと思っていた。BOD はゼロで正しいと思っていた、片側規制みたいな感じであった。これから、生き物の餌の観点から水質の話をすることも必要という感じがしてきた。(浅田)。
- 鈴木副座長は『青い海、青いというのは三河湾には当たらない。三河湾で青くて澄んだ海を求めていたら、生き物は生きていけない』と話していた。確かに沖縄の海を三河湾や伊勢湾が目指したら、多分全く違う形になると思う。やっぱり昔ながらの三河湾、多分一番よく知ってみえる色の三河湾にされれば生き物が増えるだろう。(高橋)

(2) 流域連携テーマについて

- 今、海のごみ問題は流木ではない。プラスチック類が多く、特に分解されないで粉砕化されたプラスチック類は消えないから魚が餌と間違えて捕食している事例も多い。プラスチック類のごみを減らすことが重要である。(石川)
- これから海のごみ問題を取り上げる際には、具体的にプラスチックごみ、プラスチックというキーワードが出してもいいと思う。(浅田)

(3) 今後の活動方針について

- 海の貧栄養化に関する問題と解決手法についてというテーマは非常にいいと思うが、議論が拡散する可能性が高いので、アサリを例として、貧栄養だけではなくて、さきほどの意見交換でも話したアサリの衣食住を例にとりてというように具体的に話題を絞っておくのが良い。(青木)
- 私もそれに賛成であり、これまでは干潟を造成したらよいという住の話が多かったけれども、最近、食の話も話題に入ってきた。六条潟でも東幡豆でもいいですが、フィールドに対してアサリの衣食住を考えるみたいなテーマで、単に砂を持ってきて干潟をつくるだけじゃなくて、もうちょっと大きな観点で議論するほうがおもしろそうである。
- 今後のスケジュールについて、合同部会を増やしたほうが良いと思う。9年続けてきて、各部会で課題もたくさん出てきており、それぞれの課題を他の部会の人にもわかってもらうためにも、交流が持てる場を増やしたい。そのほうが色々なアイデアがでると思う。(高橋)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、事務副所長 末松

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

調査係長 服部

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。